

1 開会行事

○挨拶

宗像市立大島学園 校長 阿部 龍彦

○大島学園運営協議会委員の紹介及び委嘱状授与【宗像市教育委員会】

○小中一貫コミュニティスクールについて ○ 会長・副会長の承認及び挨拶

○事務局の紹介

2 議事

○学園経営構想について【阿部校長】

今日は皆さんと共有したいポイントに絞ってお伝えしていきたいと思います。私と、それから研究主任の吉田先生と一緒に説明を進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。さて、今年度は新たに4名の子どもたちが入学してきました。ただ、昨年度卒業した6年生が10名と、これまでで一番多い学年だったこともあり、結果として児童生徒数は34名になっています。途中で、6年生に1人、女の子の転入生がありました。これは、宗像市のご理解や配慮、また研究校としての位置づけがあってこそものだと思います。本来、10クラス中4クラスは複式学級にしなければならない規模ですが、こうした先生配置のおかげで、すべての学級に担任を置くことができています。

私自身、この学校に来て今年で4年目です。赴任当初は「3年で一区切りかな」と思っていました。が、まだやり残したことがあるなど感じ、もう少し続けたいと考えています。「ホップ・ステップ・ジャンプ」という言葉がありますが、私なりにインターネットで調べてみたら「ステップ・ジャンプ・ワープ」という表現があって、それに惹かれました。もう一気に駆け抜けるような勢いで今年度も取り組んでいこうと思っています。

まず、本校の教育目標ですが、「大島を愛し、自分で考え、責任を持って行動する子ども」の育成、すなわち「自立」を大きな柱としています。その上で、「3つのC」——クリエイト(学びの創造)、コミュニケーション(人とのつながり)、コントロール(自己調整力)を軸に、日々の教育活動を進めています。では、課題は何かというと、子どもたちは非常に頑張っていて、先生方の指導力、組織力、温かさ、地域の方々の支援など、すべてが年々向上してきています。もう「ジャンプ」まで来たという感覚もあります。ただ、あえて課題を挙げるとすれば、「表現力」でしょうか。つまり、子どもたちが人の心を動かすような表現ができるようになること。これは、ただ原稿を読むのではなく、自分の思いや考えを相手に伝え、行動を引き出すような力を育てたいという意味です。今年度はこの「豊かな表現力の育成」を重点目標として掲げています。これが、私にとってこの学校での最後の大きな役割かもしれないと考えています。この重点目標を達成するために、大きく3つの柱を経営の重点としています。これは過去4年間変わっていません。

1 つ目は「コミュニティスクールの充実」

2 つ目は「ガイダンス機能を生かした学力向上」

3 つ目は「ふるさと学習の充実と子どもの探究活動の支援」

コミュニティスクールの土台は家庭・地域・学校が一体となることです。キーワードは「当事者意識」です。PTAの皆さんも、地域の方々も、ただ協力するのではなく、「自分たちが担っている」という意識で関わってくださっています。おかげさまで、大島学園はこの点で他の学校に引けを取らないと自信を持っています。義務教育学校としての特性も活かしています。今年度からは、これまで5年生から中学校的な扱いにしていた体制を見直し、6年生から明確に中学校的な教育スタイルへと移行しました。6年生は、教科担任制で中学生と同様に授業を受けています。制服を着ていないだけで、中身はもう中学生です。9年間の教育の中で、学年を超えた交流も進め、思いやりや優しさといった面も育てていきたいと思っています。ここからは、昨年度の研究の成果を踏まえて、研究主任の吉田が詳しく説明します。

○研究構想の説明【研究主任：吉田】

「大島ふるさとカリキュラムの実働」ですが、チーム大島、いわゆる地域の伴走者の方々と一緒に取り組んでいくというのが大きな特徴になっています。子どもたちが、自分たちのふるさとを題材にして学ぶことで、「地域を知る」「地域に関わる」「地域を支える」という段階的な学びを積み上げていくことを目指します。この学びを通して、自分たちの住んでいる場所に誇りを持ち、地域の一員としての意識を育てていく。そういう子どもたちを育てていきたいと考えています。具体的には、各学年に応じたふるさと学習のテーマを設定し、地域の方々に講師として来ていただいたり、フィールドワークに出かけたりしながら、

リアルな学びを積み上げています。これは単なる行事ではなく、教科学習とも関連づけながら、年間を通じて継続して取り組むカリキュラムです。そして、こうした実践の中に「学習ガイダンス」を組み込むことで、子どもたち自身が、自分が何を学んでいるのか、何のために学んでいるのかを考えながら学習しています。

この学習ガイダンスというのは、ただの振り返りではありません。授業の中で「自分はどこにいるのか」「次にどう進んでいけばよいのか」を子どもが把握できるように教師と対話しながら整理する時間なのです。そうすることで、子どもが自ら学びをデザインしていく、そういった主体性が育っていくと考えています。また、こうした授業の工夫は、校内で定期的に授業研究を行いながら、教師同士で振り返りや改善を繰り返していく中で育てています。外部のアドバイザーの先生や地域の教育関係者の方々にも入っていただきながら、授業を開いていく、そういうオープンな姿勢も私たちの研究の柱の一つです。今年度も引き続き、この「学びをデザインする子どもの育成」を目指しながら、校内での研修や授業実践、地域との協働を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〇まとめ【阿部校長】

全国には、私たちと同じような離島・へき地の義務教育学校がいくつかあります。おかげさまで、うちの教職員はとてもコミュニケーション力が高く、他校との交流も積極的に行っています。2年前からは熊本の高森東学園との交流を続けており、今年もすでに動き始めています。また、昨年度は愛知県の学校との研究交流もありました。そして今年は、対馬の佐須奈小中学校と交流を開始します。明後日、小学生が修学旅行で来校し、うちの子どもたちと一緒に学習します。これは一過性のものではなく、今後も継続していく予定です。さらに、韓国からも4つの小学校が訪問予定です。これは3年間続いている交流で、今年も協働活動を予定しています。マスコミの取材も入るようなので、ご興味のある方はぜひ見学にいらしてください。このように、多くの人との関わりの中で子どもたちは育っていきます。今年もまた、地域の方々を「伴走者」として、先生たちと一緒に子どもたちの成長を支えていきたいと考えています。

4 熟議

◆児童生徒会（代表）

「みなさん、こんにちは。僕たちは児童生徒会の役員です。今日は、ふだんの活動のことや、僕たちが大事にしている思いを、学園運営協議会のみなさんに知ってもらいたくて参加しました。」

「いろいろある中で、地域の人と一緒にやってきた活動をいくつか紹介させてください。」

「たとえば、米作りでは、地域の人や保護者の方にも協力してもらって、田植えから収穫まで一緒にがんばりました。」

「それから、伝統の運動会も、準備から片付けまで地域のみなさんと一緒にやって、すごく絆を感じられる行事になりました。」

「そういう活動を通して、今年は『結』っていうスローガンを立てました。これは、地域、家庭、人、世界遺産…全部を“結ぶ”っていう意味がこもってます。そして、その真ん中にあるのが“大島”なんです。」

「さらに、“U and I（あなたとわたし）”という意味もあって、“結”という言葉で、つながりを大切にしたいという思いを込めました。」

「この“結”を実現するために、地域のみなさんに一緒にやっていきたいことを提案させてください。」「まず1つ目は、授業の中でもっと地域の人と交流できたらと思っています。今も総合学習などで関わってもらってますけど、もっとたくさんの人と地域の課題と一緒に取り組めたらと思っています。」

「2つ目は、学校の行事に地域の方にももっと参加してもらいたいし、逆に地域の行事に僕たちも参加していきたいと思っています。でも、高齢の方とかで参加が難しい人もいるかもしれないので、そこはどうしたらいいか、ぜひみなさんと一緒に考えられたら嬉しいです。」

「3つ目は、『児童生徒会新聞』を作りたいって思ってます。ぼくたちの活動の様子や地域の人へのインタビューを載せたりして、回覧板とか、Webで見られるようにして、もっとつながりが広がればいいなと思っています。」

「この『ゆい』のスローガンを達成するために、ぜひみなさんの意見を聞かせてください。今日はありがとうございました!」

◆児童生徒会担当職員（中山）

生徒会のみなさん、本当にがんばって発表してくれました。緊張もあったと思うけど、すごく伝わりました。今回、提案した中には、やっぱり子どもたちだけじゃ難しいこともあります。たとえば、“高齢者の方にどう来てもらうか”とか、“新聞をどう配るか”とか、そういう部分でぜひ地域の皆さんの知恵や力をお借りしたいなと思っています。」

◆阿部校長

生徒会新聞は、どのくらいの頻度で発行する予定ですか。

◆児童生徒会（代表）

校長先生の学校通信が発行された直後には発行しようと思います。

◆福崎委員

さっき、来られないお年寄りの話が出ましたね。たしかに“知らない”っていうのもあるし、でもやっぱり“足”がないっていうのが大きいと思います。足腰が弱くなって、外に出るのが大変だったりするんですね。その“足”って、車とか送迎って意味もあるけど、付き添ってくれる人って意味でもあると思うんです。そこをどう支えるかっていうのを、みんなで考えていけたらなって思います。

◆熟議のまとめ 福岡教育大学教職大学院（坂井教授）

生徒会のみなさん、本当にお疲れ様でした。緊張したと思うけど、全然そんなふうには見えなかったです。発表、とってもよかったです。“結”ってスローガン、すごく素敵ですね。地域のつながりを大事にする姿勢、しっかり伝わってきました。大島が抱えている課題って、実は日本中の課題でもあるんですね。だから、君たちの取り組みは、すごく先進的でもあるんです。学校の勉強って、ただテストの点を取るだけじゃなくて、今みたいに“地域の課題に生かせないかな”って考えながらやると、もっと意味のある学びになると思います。私も大学で教える立場として、今年の島民運動会にはゼミ生を連れて一緒に参加したいと思っています。その時に、また君たちの活躍を楽しみにしています。」

閉会行事

○ 挨拶【宗像市教育委員会】

◆中村部長

これまでいろいろな協議会に出席してきましたが、生徒を交えた、こんなに温かい雰囲気の場合は初めてで、本当に素晴らしいと感じました。昨年度の研究発表では、子どもたちが学びにしっかり向き合う姿が見られて、感動しました。また、防災学習の場でも、今日のように堂々と発表する姿が見られ、とても心強かったです。

今年度の取り組みについても、阿部校長先生のお話の通り、引き続き進めていただければと思っています。1つお願いがあります。校長先生のスライドの中にもありましたが、近年、不審者対応が大きな課題となっています。このことについて、今後の学園勉強会などで地域の方々とも連携しながら考えていく機会を作っていただき、子どもたちの安心・安全な生活を守るために、ぜひ取り組みを進めていただければと思っています。引き続き、活発な議論を行いながら取り組んでいければと思っています。本日はありがとうございました。

◆大庭指導主事

子どもたちにたくさんの愛情が注がれているからこそ、ああいう姿が生まれているんだなと感じました。また、今日初めて運営協議会の方針についてお話を伺いましたが、実は昨年、宗像市の研修会や福岡事務所の広域研修の場でも、阿部校長先生に大城学園の取り組みをご紹介いただきました。今回、あの内容が実際に生かされているのを見て、とても嬉しく思いました。今年は「表現力の育成」がテーマとのことでしたが、昨年度の発表会の前に行った「指導審議」のように、授業内容を先生方と一緒に考えながら進めていく形が、とても良いなと思いました。特に印象的だったのは、子どもたちの意見や思いに寄り添って、直前にでも企画を変更する柔軟さがあったことです。先生方のサポートも心強く、心から感謝しています。